

置賜地域の森林

森林がある市町村	森林面積	森林の割合
3市5町	25万 ha	77%

置賜地域の森林の特徴は、最上川や荒川の源流部であることから、ナラ類などの天然林が多く、森林面積の7割以上を占めます。

里山には、松林が広がり、まつたけが採れる山が多くあります。

奥山には、北西の朝日連峰や南西の飯豊連峰、南側の吾妻連峰の麓にはブナ林も広がっています。

そうもくとう
草木塔

昔から人々は、身近な森林に入って、きのこや木の実・山菜などの食料やまきを集めたり、木を切って建築材にしたり、炭焼きをするなど森林と深くかかわって暮らしてきました。県内には、写真のような「草木塔」や「草木供養塔」とよばれる石碑が多く見られます。これは、自然のきびしさをおそれ、山仕事の安全を願い、森の恵みに感謝する人々の心を表すために建てられたものです。江戸時代から大正時代に建てられた古い草木塔は国内に55基が確認されており、その大部分の53基が山形県の置賜地方にあります。昭和・平成になってからは、全国各地に多くの草木塔が建てられています。わたしたち山形県民には、草木塔に代表されるような「自然に感謝する心」というすばらしい文化が、祖先から受け継がれてきました。



小国町のブナの天然林



草木塔 (2008年撮影)



まつたけが採れる「森平山」

小国町のマタギとブナ文化

小国町は、町土の94%を森林が占めており、そのうちの約76%がブナを中心とした天然林となっています。ブナの実、山菜、きのこ、溪流にすむイワナなど、山の幸や川の幸を育てています。また、たくさんの動物たちが生息しているほか、雨水や雪どけ水をたくわえ、その水が川となり、地域一帯を潤しています。

小国町の人々は、古くからこの恵み豊かな森の中で暮らし、季節を身体で感じながら、森や自然とともに生きる生活の知恵を身につけてきました。町では、この独特の生活文化のことを「ブナ文化」とよんでいます。また、狩猟をしながら生活する「マタギ」とよばれる人々がいます。町内の小玉川地区や五味沢地区には、今もこの「マタギ」の伝統を受け継ぐ人々がいます。



小玉川地区のマタギ

げんりゅう
源流の森 (飯豊町)

飯豊町の白川ダム周辺にある「源流の森」は、森の中で、憩い、学び、遊び、鍛えることのできる森林の郷を目指しています。中心となる「源流の森センター」には、森林と人とのかかわりを体感できる展示や映像コーナーなどがあります。また、豊富な散策・学習コース、森の中の冒険プログラムが体験できる「冒険の森」や親子で楽しくクラフトや陶芸ができる「森のアトリエ」など、森林に親しめる施設があります。



源流の森センター

源流の森の近くには、温泉、オートキャンプ場、観光わらび園などがあり、森林や自然のすばらしさをじかに体で感じ、楽しむことができます。